

2024

オンデマンド
配信

不登校に対する課題予防的生徒指導 —SOSの出し方・受け止め方と早期支援—

北海道教育大学函館校 准教授
博士(心理学), 公認心理師, 臨床心理士
学校心理士スーパーバイザー, 認定行動療法士

本田 真大

構成

本田真大(北海道教育大学函館校)

○不登校対応の重層的支援構造

支援構造	内容
困難課題対応的 生徒指導	・ケース会議に基づく, 家庭訪問, SC・SSW等のカウンセリング ・別室登校や校外関係機関と連携した継続的支援
課題予防的 生徒指導 II 課題早期発見対応	・休み始め段階でのアセスメント(スクリーニング会議) ・教職員, SC, SSW, 保護者の連携・協働による支援の開始
課題予防的 生徒指導 I 課題未然防止教育	・児童生徒のSOSを出す力の獲得 ・児童生徒の変化に気付きSOSを受けとめる力の向上 ・教育相談体制の充実
発達支持的 生徒指導	・学校が安全・安心な居場所となるための 「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫

1)文部科学省(2022)を基に作成

不登校に対する課題未然防止教育

- 01 SOSの出し方教育
- 02 SOSの早期発見
- 03 SOSの受け止め方

本田真大(北海道教育大学函館校)

01 SOSの出し方教育

本田真大(北海道教育大学函館校)

○北海道教育委員会版自殺予防教育¹⁾の特徴

目的	死にたいほどつらくなる時は誰にでも起こり得るため, 適切な対処を学ぶ 課題予防的生徒指導: 課題未然防止教育 ²⁾
対象	主に中学生, 高校生 ワークシートの修正で小学生にも実施可能
特徴	・自殺に限定しない内容も含む 限定しない A: 援助希求態度(援助要請)の育成, C: ストレス対処能力の育成 自殺に限定 B: 心の問題の早期認識 ・価値観の押し付けをしない 自死遺族や自傷行為をしている子どもの傷つきを防ぐ ・グループワークを中心に行う 多様な考え方に気づき認め合う, 仲間関係を強化する
実施方法	・全9時間のプログラム(1回50分)から一部または全部を使用する ・学校の実情や実施目的に合わせて修正してよい ・実施前の準備(合意形成等), 実施後のフォローアップ体制構築 ³⁾

1)北海道教育委員会(2018)を基に作成, 2)文部科学省(2022), 3)文部科学省(2014)

01 SOSの出し方教育

本田真大(北海道教育大学函館校)

○A-1 相談しやすい人間関係¹⁾

目的	相談したいと思える人間関係を形成する
概要	分かってほしい話を聴く、自分のことを話す練習
内容	<u>上手な聴き方スキル</u> (言語、非言語) <u>あたたかい言葉かけスキル</u> (相手の様子+自分の気持ち)

上手な聴き方
「伝わった」実感と快感情

- ・ ロールプレイを繰り返し見つけていく
- ・ 姿勢、うなずき、あいづち、質問の仕方、…

あたたかい言葉かけ
気持ちが伝わる言い方

相手の様子 + 自分の気持ち

話す様子：「一生懸命説明してくれて、とても嬉しかったよ」
話の内容：「△△をずっと続けているんだね、すごいね」

¹⁾北海道教育委員会(2018)を基に作成

01 SOSの出し方教育

本田真大(北海道教育大学函館校)

○A-3 相談しやすい会話の仕方¹⁾

目的	悩みを相談しない友人の、相談の抵抗感を想像する 悩みながらも相談しない友人を助け、大人になく
概要	「気づく」「関わる」「つなぐ」の学習
内容	<u>相談を引き出すスキル</u> (相手の様子+自分の気持ち+促す質問)

気づく
悩み状態の自己/他者理解

	こころ(感情)	からだ(身体)	かお(表情)
()イライラする(怒り)	()寝不足	○	
()落ち込む(悲しい)	()頭痛・腰痛		
()心配になる(不安)	()だるさ・疲れ		
()その他	()その他		

関わる
悩んでいる友人に会話を促す

相手の様子 + 自分の気持ち + 促す質問

「今日、機嫌悪そうで、朝から気になってたけど、どうしたの？」

つなぐ
大人への相談を勧める

- ・ なぜ大人への相談を勧めることが必要か
- ・ 大人に相談した方が良かった時の言い方を考える

¹⁾北海道教育委員会(2018)を基に作成

01 SOSの出し方教育

本田真大(北海道教育大学函館校)

○A-2 相談しやすい方法¹⁾

目的	相談するかどうか迷うときの考えを自己理解する 上手な相談の仕方を知る
概要	相談の期待感と抵抗感(認知)、行動(スキル)の学習
内容	<u>援助要請スキル</u> (いつ、どこで、誰に、どのような言い方で)

あなたは最近、気分が落ち込んで何かと自分を責めることが増え、一方でささいな事でもイライラして怒りっぽくなったと感じています。学校では集中力が続かず授業の内容が頭に入りません。クラスみんなが楽しそうにしている自分だけが不自然に振る舞ってしまい、周囲に不快な思いをさせている気がして落ち込みます。朝、学校に行くのがつらくて休みたい日もあります。

以前は好きだったことも楽しめなくなり、一人で部屋にいと「過去は失敗ばかりで、これから先も良いことはないだろう」という考えが頭に浮かびます。いつもに比べると食欲がなく、また、よく眠れない日も続き、最近はいつも通りの生活を送れていないと感じています。

- (1)相談するとよいこと(援助要請期待感)
相談すると心配なこと(援助要請抵抗感)
- (2)相談しないとよいこと(非要請期待感)
相談しないと心配なこと(非要請抵抗感)
- (3)自分だったら相談しますか
 - ・ 相談する場合
いつ、どこで、誰に、どのような言い方で
 - ・ 相談しない場合
相談しない代わりにすること

¹⁾北海道教育委員会(2018)を基に作成

02 SOSの早期発見

本田真大(北海道教育大学函館校)

○一人一台端末を活用した体調の変化の早期発見¹⁾

無償		有償	
会社名	システム名	会社名	システム名
Google	Google Form	RAMPS(ランプス)	RAMPS
Google	Looker Studio	子どもの発達科学研究所	デイケン(デイリー健康観察)
Microsoft	Microsoft Forms	子どもの発達科学研究所	NiCoLi(心の健康観察ニコリ)
Microsoft	Reflect	STANDBY(スタンドバイ)	シャボテンログ
		STANDBY	STANDBY(匿名相談等)
		ミライト・ワン・システムズ	コンレポ
		LEBER(リーバー)	LEBER
		EDUCOM(エデュコム)	スクールライフノート
		LoiLo(ロイロ)	ロイロノート・スクール
		Welcome to talk	スクールメンタルヘルスケア

¹⁾文部科学省(2023)を基に作成

02 SOSの早期発見

本田真大(北海道教育大学函館校)

○ストレス反応からの早期発見と支援¹⁾

<p>身体的反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛み ・睡眠の問題 <p>▶ 身体面への心配, 不快感情の言語化</p>	<p>不安・緊張</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不調(下痢, 咳等) ・倦怠感, だるさ <p>▶ 安全感・安心感の提供, 教師の余裕</p>
<p>攻撃・怒り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒りの表情 ・乱暴な態度, 視線 <p>▶ 背後の「願い」の読み取り</p>	<p>無気力・憂鬱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配そうな表情 ・戦う(警戒する), 逃げる, 固まる <p>▶ 感情表現の乏しさ</p> <p>▶ 自己否定的な考え(自分はダメだ)</p> <p>▶ 本人の行動に良い結果を与える</p>

¹⁾小林・小野(2005)を基に作成

03 SOSの受け止め方

本田真大(北海道教育大学函館校)

○事例 笑顔のSOS: 「大丈夫です」と言う子どもへの関わり¹⁾

・教育相談の場面で生徒に何と応答するか, < _____ >の発言を考えましょう

スライド参照

< _____ >

¹⁾本田(印刷中)を基に作成



不登校に対する課題早期発見対応

- 01 休み始め段階でのアセスメント
- 02 連携・協働による不登校支援
- 03 不登校の早期の発見と支援
- 04 まとめ

本田真大(北海道教育大学函館校)

01 休み始め段階でのアセスメント

本田真大(北海道教育大学函館校)

○HOKKAIDO不登校対策プラン¹⁾

登校	欠席率	児童生徒の状況	01 安心して 学べる場	02 SOSを見 逃さない	03 学べる 環境整備	04 実効性を 高める	予兆
登校している	0日	①毎日、元気に登校している	↑	↑	↑	↑	0日-2日連続欠席
	0日~2日連続 予兆	②学校に行くのがつらい、または、行きたくないと感じている ③授業を休みがち、座っていても授業に参加していない ④遅刻や早退が多い					不登校傾向
	3日連続~29日 不登校傾向	⑤自分の教室には入れず、別室(保健室や空き教室等)に登校している ⑥休みがち、又は、欠席が続く					不登校
	30日~	⑦欠席が多い					30日-欠席
登校していない	30日~	⑧教育支援センターに通っている ⑨自宅でICTを活用した学習に参加している ⑩フリースクールやインターナショナルスクールに通っている ⑪上記①~⑩に該当しない					

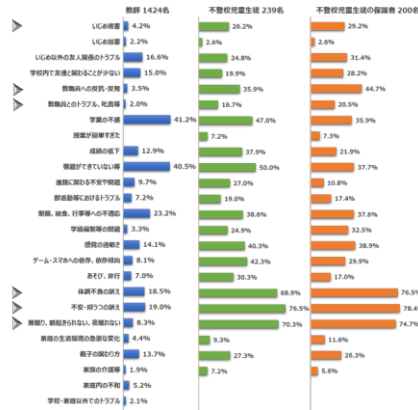
※例示からの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくできない状況にあるもの(病気、経済的理由等を除く。)

¹⁾北海道教育委員会(2024)より引用転載

01 休み始め段階でのアセスメント

本田真大(北海道教育大学函館校)

○不登校の要因分析(きっかけ)¹⁾



- ・教師 1424名 「事実としてあったか」
- ・児童生徒 239名 「休みはじめに辛かったこと」
- ・保護者 200名 「休むようになったきっかけ」
- ・学業不振、宿題の提出困難は共通認識
- ・**教師がほとんど認識しなかった項目**
- 「いじめ被害」
- 「教職員への反抗・反発」
- 「教職員からの叱責」
- 「体調不良の訴え」
- 「不安・抑うつ訴え」
- 「居眠り、朝起きられない、夜眠れない」

¹⁾子どもの発達科学研究所・浜松医科大学子どものこころの発達研究センター(2024)より引用転載

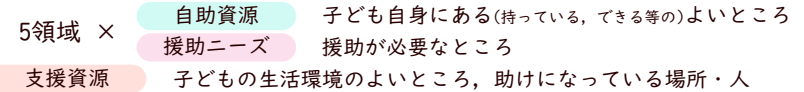
01 休み始め段階でのアセスメント

本田真大(北海道教育大学函館校)

○子どものアセスメントと支援¹⁾²⁾

・5領域からのアセスメント(学校心理学, 生徒指導提要)

領域	内容の例
学習面	学習の意欲や習慣, 学力, 成績
心理面	情緒面の安定さ, ストレス対処
社会面	人との付き合い方(友人・教師・家族等)
進路面	趣味, 特技, 価値観等の生き方の自己選択・自己決定
健康面	体力, 遅刻・早退, 健康状態等の主として身体的な健康



¹⁾本田(2017), ²⁾文部科学省(2022)を基に作成

01 休み始め段階でのアセスメント

本田真大(北海道教育大学函館校)

○アセスメントのための情報収集¹⁾²⁾³⁾

支援資源の例		
領域	自助資源の例	援助ニーズの例
学習面	得意な教科がある 勉強が好きである	苦手な教科がある 聴覚からの理解が苦手である
心理面	気分が安定している 表情が豊かである	イライラしやすい 心配なことがあると体が固まる
社会面	順番などの集団の規則を守る 友人と話すことが好きである	友人とけんかすることが多い 自分の気持ちを他者に言えない
進路面	好きなことがある 将来になりたい職業がある	自分の将来に希望を持ってない 整理整頓が苦手である
健康面	生活リズムが安定している 体力がある	遅刻・欠席が多い 身体の怪我・病気がある

¹⁾石隈(1999), ²⁾石隈・田村(2003), ³⁾本田(2020)

02 連携・協働による不登校支援

本田真大(北海道教育大学函館校)

○チーム支援計画の作成¹⁾

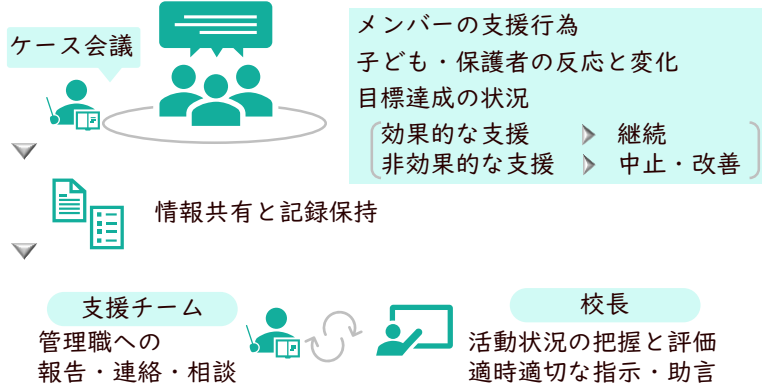


¹⁾文部科学省(2022, 第3章)を基に作成

02 連携・協働による不登校支援

本田真大(北海道教育大学函館校)

○チーム支援の実践¹⁾



¹⁾文部科学省(2022, 第3章)を基に作成

03 不登校の早期の発見と支援

本田真大(北海道教育大学函館校)

○事例 登校渋りを示す子どもへの支援¹⁾

スライド参照

¹⁾本田(2018a, b)を基に作成

03 不登校の早期の発見と支援

本田真大(北海道教育大学函館校)

○アセスメント¹⁾複数に該当するものは1か所を書きます。空欄があってもよいです

支援資源		
領域	自助資源	援助ニーズ
学習面		
心理面		
社会面		
進路面		
健康面		

¹⁾本田(2018a, b)を基に作成

04 まとめ

本田真大(北海道教育大学函館校)

○不登校に対する課題予防的生徒指導

- ・ SOSの早期発見後の支援開始の時期を図る
子どものSOSに気づいても、むやみに聞き出そうとしない(アウティングを避ける)
子どものSOSを(今は)出したくないという心情も考慮しながら、SOSを受けとめていく
- ・ 不登校の初期段階のアセスメントと支援¹⁾
5領域の理論的枠組みにより不足している情報が明確になる(何が分からないかが分かる)
不足する情報を得るために教職員や保護者、専門家との連携・協働が促進される
- ・ 自助資源, 支援資源(援助資源)を活かす利点²⁾
学校で発揮されていない子どもの良さに気づける(支援の幅が広がる)
子ども自身が登校に向けた課題に取り組みやすくなる(挑戦しやすい)

¹⁾本田(2017), ²⁾本田(2020)を基に作成

引用文献

本田真大(北海道教育大学函館校)

- 北海道教育委員会 (2018). 児童生徒の自殺を予防するためのプログラム
- 北海道教育委員会 (2024). HOKKAIDO不登校対策プラン https://www.dokyo1.pref.hokkaido.lg.jp/fts/1/0/0/6/8/3/0/8/_/%E4%8B%80%E6%88%AC%E5%8D%B0%E5%88%B7.pdf
- 本田真大 (2017). 生徒理解のための心理学—理論と実際の双方向からの多面的理解— 藤田哲也(編著) 水野治久・本田真大・串崎真志 絶対役立つ教育相談—学校現場の今向き合う— (pp.11-22) ミネルヴァ書房
- 本田真大 (2018a). アセスメント 渡辺弥生・西山久子(編著) 必携 生徒指導と教育相談—生徒理解, キャリア教育, そして学校危機予防まで— (pp.103-107) 北樹出版
- 本田真大 (2018b). 教師が使える, 教師が知っておきたいアセスメントの方法渡辺弥生・西山久子(編著) 必携 生徒指導と教育相談—生徒理解, キャリア教育, そして学校危機予防まで— (Pa.107-111) 北樹出版
- 本田真大 (2019). チームとしての学校(チーム学校)とスクールカウンセラー—心理の専門性を発揮しながら協働するための理論と方法— 川端直人・大島剛・柳式徹(監修) 水野治久・串崎真志(編著) 公認心理士の基本を学ぶテキスト18 教育・学校心理学—子どもの学びを支え, 学校の課題に向き合う— (pp.155-169) ミネルヴァ書房
- 本田真大 (2020). 教育相談におけるアセスメント 藤原和政・谷口弘一(編著) 学校現場で役立つ教育相談—教師をめざす人のために— (pp.33-48) 北大路書房
- 本田真大 (印刷中). スクールカウンセラーへのSOSの出し方、受け止め方 水野治久・本田真大・永井智・木村真人・飯田敬晴(編著) 四辻伸吾(著) 援助要請の考え方に基づく「SOSの出し方教育」の実践 金子書房
- 石隈利紀 (1999). 学校心理学 誠信書房
- 石隈利紀・田村節子 (2003). 石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門 学校心理学・実践編 図書文化
- 小林正幸・小野昌彦 (2005). 教師のための不登校サポートマニュアル 不登校ゼロへの挑戦 第3版 明治図書
- 子どもの発達科学研究所・浜松医科大学子どものこころの発達研究センター (2024). 文部科学省委託事業 不登校の要因分析に関する調査研究報告書 https://kohotsu.org/pdf/futoukouyoin_202403_05.pdf (2024年6月13日)
- 文部科学省 (2014). 子供に伝えたい自殺予防—学校における自殺予防教育導入の手引
- 文部科学省 (2022). 生徒指導提要 https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf (2022年12月6日)
- 文部科学省 (2023). 1人1台端末を活用した健康観察・教育相談システム一覧 https://www.mext.go.jp/content/20230711-mext_jidou02-000030865_002.pdf (2024年6月5日)